

ナダ

高速切断

AW360SP

ク管を切断できる。また、切断時の負荷状況がわかるLEDインジケータや、切断材質に応じて回転数を変更できる速度切り替えスイッチを搭載し、さらに、刃の露出も少ないため安全に切

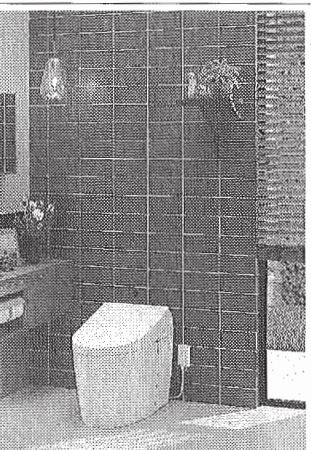
断作業が可能など、作業者が使用しやすい設計となっている。

【主な仕様】▽切断能力φ75〜360mm▽最大切断肉厚11鉄管20mm、ステンレス管10mm、プラスチック管39・2mm▽モ

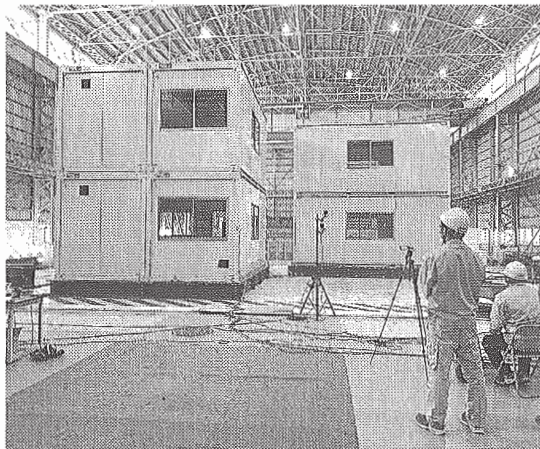
ータ2500rpm、単相200V▽回転数1低速時毎分1900回転、高速時毎分2850回転▽寸法(L×W×H)1160×250×305mm▽本体

付属品11シヨルターバッグ、パイサポット(大1個、小2個)、工具箱(六角棒レンチ5mm、1本、2mm、スパナ1本)、保護メガネ。

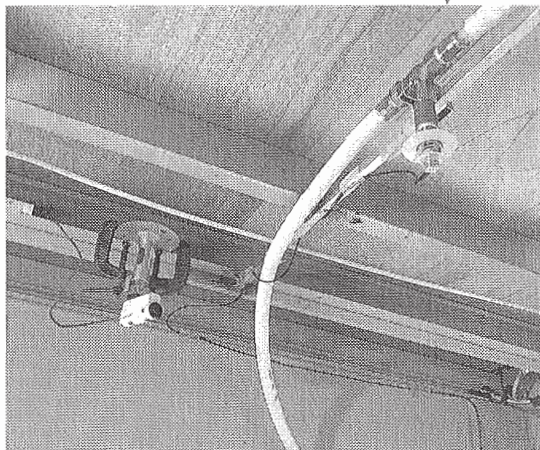
価格は39万8000円。目標販売台数は年間



タータイプの「レストルー



プレハブの建物を縦、横方向に2棟設置した耐震評価試験の模様



耐震評価の検証のため設置された住宅用スプリンクラシステム

前田バルブ工業 住宅用スプリンクラシステム 耐震性検証で評価

前田バルブ工業(本社・名古屋市港区船見町29-1、社長前田康雄氏、☎052-618-3800)の住宅用スプリンクラシステムの耐震性評価試験が昨年末、茨城県つくば市の防災科学技術研究所(NIED)の大規模耐震実験施設で行われた。名古屋大学、北海道大学を中心とした大学側と製造業者の産学共同研究で、プレハブメーカーの耐震評価とともに、室内に設置した住宅用スプリンクラシステムの耐震性を検証した。

試験は、一般住宅とグループホームなど特定施設を想定して行われ、一般住宅用試験では主に木材への固定を行い、特定施設用試験では主に鉄骨への固定を行った。配管は最もニーズの高い架橋ポリエチレン管を使用。試験内容は、配管内に1

がパスカルの水圧をかけ、阪神淡路大震災級の震度を2度にわたって加振、同じ建物を縦方向と横方向に2棟設置し加振した。大きな変形を受けた建物の各所には破損・変形が見られたものの、住宅用スプリンクラシステムには異常は見られなかった。

耐震評価試験には、総務省消防庁や消防防災科学センターからの視察もあり、住宅用スプリンクラに高い関心を示した。今回の試験では、室内の住宅用スプリンクラシステムの耐震性は認められたが、建物屋外の配管評価を行っていないため、次年度も引き続き共同研究を進めるとしている。耐震評価試験の内容は、9月に行われる日本建築学会年次大会で前

田バルブ工業が発表する。このプロジェクトの責任者である前田バルブ工業の前田崇統専務は「今回の研究で、火災の確実な初期消火を行うために耐震の課題を発見し、技術力や製品力の向上を図っていきたい」としている。

新年ボウリング大会開く

多田ボンパ

多田ボンパ(本社・大阪市西区、社長多田吉孝氏)は1月18日、大阪市中央区のラウンドワンスタジアム千日前店で新年ボウリング大会を開催した。同社社員と主要取引先担当者ら52名が参加し、親睦を深め合い、新たな歓声が上がった。

表彰式では、順位が表されるたびに拍手と

のスタートを切った。ゲーム終了後には、ウリング場近くの「道頓堀治兵衛」場所を移し、新年会

長が「恒例となつて、ボウリング大会も令和となるが、多くの方が参加いただき感謝している。仕入メーカーにおかげで昨年は業績順調に推移することができた。今年は、目先の字だけを追いかけるのではなく、協調性と思いを持った会社づくりを目指していきたい」と

負を述べ、荏原製作所大阪支店の濱輝明支店が乾杯の発声を行い